

購読の申し込みは
日本医労連へ
購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)
送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替00160-6-84866
ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
電子メール n-ask@irouren.or.jp

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

第1861号 2025年10月23日
編集・発行
日本医療労働組合連合会
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
日本医療労働会館3階 TEL03(3875)5871
発行 毎月2・4木曜日
(昭和36年9月15日)
(第三種郵便物認可)



レバカレ最後に全員で記念撮影(公式Instagramより)

対話と学びあいを実践した3日間 つどってしゃべってつながって レバカレ2025

全国労働組合総連合(全労連)は10月11日〜13日、東京・京橋ビジョンセンターなどで、「労働運動交流集会レイバー・ユニオン・カレッジ(通称レバカレ2025)」を開催。全国から様々な産業の労働組合員ら7000人が交流しました。

全労連は、全国各地のすぐれた経験と実践に学び、対話を通じて運動を深めることを目的に、レバカレ2025を開催。米国・中国・台湾からの参加もあり、7000人が全体会や分科会を通じて、学び交流しました。

2日目の全体会では、レイバー・ユニオン理事長のエレン・D・フリードマンさんをアドバイザーに迎え、「労働運動の未来は誰がつくるか」をテーマにトークセッションがありました。パネリストには北海道労働医労の岡田さんが登壇し、団体交渉で訪問看護の電話相談業務に1分単位の時間を勝ち取った経験を報告しました。フリードマンさんは、



分科会でレクチャーする遠藤さん(公式Instagramより)

労働相談があった際には他に同じ問題を抱えている人がいないか聞くことが大切とし、経営者は様々なことを隠そうとするが労働組合にはそれを開示させるパワーがあると話しました。

3日間のレバカレでは、京橋会場と八重洲会場に分かれて70の分科会が設置されました。

そのうち群馬県医労連は、24春闘で県内初の1日病院ストライキを行った経験について、利根保健生協労組の高橋陽介書記長が報告を行いました。報告を聞いた参加者からは、「患者に迷惑がかかるのでは」という『ストアレルギ』をどう乗り越えたのか、スト決行後の組合活動に変化

はあったのか、など質問が多数寄せられていました。

宮城県医労連の遠藤麻由執行委員長は「ぼそぼそ声の民主主義」と題して、職場での組合活動を蘇らせた経験をグループワーク形式で共有しました。その他にも、日本医労連の加盟組織から多数の分科会が開かれていました。

最終日の全体会では分科会の報告セッションが行われ、群馬県医労連の古川真由美書記長がパネリストとして登壇しました。

3日間の全体会の様子はYouTubeでアーカイブ視聴できます。詳細は全労連ホームページをご覧ください。

脈路

ようやく暑かった夏も限りをみせ始め涼しい風が時折吹くようになりました。秋の訪れを感じ、夏の疲れを拭い去ってくれるような、心身ともに癒される時間を過ごせる季節に期待をしつつ、それでも忙しい日々が走馬灯のように過ぎていきます▼秋といえは、いくつかの童謡や唱歌を思い出します。他の季節に比べて、歌詞を覚えていくものやメロディーを覚えている歌が秋は多いと感じます。たとえば「虫の声」「小さい秋見つけた」「赤とんぼ」「夕焼け小焼け」など▼都会に住んでいて残念なことは、秋を感じる機会が田舎に比べて非常に少ないことです。虫の声「などは、田舎に住んでいると、夜に窓を開けただけで大合唱が聴こえ、秋を身近に感じることができます。色々な種類の虫たちが我先にと声を震わすさまは心が満たされる瞬間でもあります▼虫の声を意識として聞くことができるのは、日本人とホリネシア人のみとされています。西洋人が虫の鳴くのを音として捉え、雑音・機械音として音楽脳で処理しているのに対して、日本人は、人と話すのと同じ言語脳で、受け止めて聞いているからだそうです▼すべての候補者が「変わる決意」を訴えた自民党総裁選、夏から秋へと移り変わるように、本当に政治が変わる「虫の声」は聴こえるのか。わずかな期待を持ちながら、組合員の声を聞きたいと思う。

国際的に包囲網を張る 日本医労連がGNU総会で訴え

日本医労連は米国で開催されたGNU総会とGNSAに参加。日本の看護師の労働実態を報告するとともに、加盟各国と交流しました。

GNU(世界看護師連合)の第12回総会の討論会で日本医労連は、「国際的にみて異常な日本の長時間労働と短い勤務間隔の働き方を改善させるため、国際的に日本政府を包囲したい。ILO(国際労働機関)からは正勧告を出させる取り組みを始めるためにも、GNU参加各国から賛同署名を集めたい」と提案。総会のまとめでは、この提案に心えることが提起されました。

GNSA(世界看護師連帯集会)のパネルディスカッションでは、佐々木悦子中央執行委員長が登壇。日本の看護師の異常な労働実態の報告に、驚きの声が上がっていました。

その後は「安全な人員配置のための世界的なたたかい」をテーマにした分科会に参加し、日本では人員不足と長時間労働などにより、看護労働は過酷さが増し、ここ数年で退職者も増えている実態などを報告しました。人員不足による労働強化は各国にも共通する課題であり、世界の看護師が連帯を強め、患者にとっても有効である「安全な看護師配置」実現のための運動を強化することが呼びかけられました。16時間夜勤や勤務間隔8時間未満の実態を聞いた他国の参加者は、驚愕し「日本の労働法では違法にならないのか?」「なぜたたかわないんだ」と言う率直な声がありました。



NNU(全米看護師連合)4人の会長の1人メアリー・ターナーさん(中央)と

GNU総会・GNSAの詳細は、月刊「医療労働」2026年1月号に掲載予定です。

25秋闘 11・5 回答指定日 11・6 統一行動日

処遇改善につなげる診療・介護報酬10%アップの取り組み 団体署名マップピングで 世論を広げよう!

10月21日に、診療報酬・介護報酬の10%以上の引き上げを求める取り組みに連動して、オンライン署名と特設サイトがオープンしました。

日本医労連は、25秋闘の取り組みのなかで「ケア労働者の大幅賃上げ」をめざし、その取り組みの柱の要求として「診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の10%以上の引き上げ改定」を掲げています。公定価格の「10%以上の改定」は病院団体なども国に対する要望の中で訴えており、大きな共同が広がる可能性があります。来年の診療報酬の改定率は12月中・下旬に厚労大臣と財務大臣の折衝によって決まるため、それまでに大きな世論にしていこうとが極めて重要です。

在265筆を集約しており(10月21日時点)、特設サイトのマップピングしていきま

す。日本医労連公式X(旧Twitter)では、賛同マップのスクリーンショットをSNSに投稿し、「10%以上の改定」の要求が日本全国でどれほど広がっているか、随時伝えていきます。マップピングの数が増えるほどアピールできるので、さらなる団体署名への取り組みをお願いします。

オンライン署名は世論喚起に有効

今回は「ケア労働者も限界です!」診療報酬・介護報酬をあげて他産業並みの賃上げをしてください」署名を立ち上げています。オンライン署名

全国保険医団体連合会が今年3月に立ち上げたオンライン署名「高額療養費の限度額引き上げを撤回してください」

い」は、10日ほどで15万もの賛同が寄せられ、制度改悪凍結に結びつきました。今や、オンライン署名の世論への影響は見逃せないので

日本医労連でも昨秋よりオンライン署名を立ち上げており、「訪問介護をなくす!」緊急で訪問介護事業所の基本報酬を引き上げて「署名」とケア労働者を応援して!医療・介護崩壊につながる離職を止めるため、医療・介護従事者の大幅賃上げしてください!」署名には、それぞれ4万を超える賛同がありました。

今回は「ケア労働者も限界です!」診療報酬・介護報酬をあげて他産業並みの賃上げをしてください」署名を立ち上げています。オンライン署名

名のやり方は、発059号の添付①をご確認ください。

オンライン署名は、SNSで拡散することで、筆数が飛躍的に伸びます。Xデモなどで積極的に拡散しましょう。

街頭宣伝でリアルとネットをつなぐ

SNSやネットでの盛り上がりを取り戻すには、SNSやネットでも昨秋よりオンライン署名を立ち上げており、「訪問介護をなくす!」緊急で訪問介護事業所の基本報酬を引き上げて「署名」とケア労働者を応援して!医療・介護崩壊につながる離職を止めるため、医療・介護従事者の大幅賃上げしてください!」署名には、それぞれ4万を超える賛同がありました。

今回は「ケア労働者も限界です!」診療報酬・介護報酬をあげて他産業並みの賃上げをしてください」署名を立ち上げています。オンライン署名

名を統一した宣伝グッズを用意しました。横3mの横断幕は、各加盟組織に1枚送ります。チラシ(データ配信)は、8つ折りするとティッシュに封入することができます。街頭宣伝で、その場でオンライン署名に賛同できることを伝え、協力を呼びかけましょう。

「診療報酬」「介護報酬」は一般の方には馴染みがありませんが、いかにいかに度々発信することが大切です。積極的な発信で、地域の医療・介護を守るためには10%以上の報酬引き上げが適切であることを多くの人に納得してもらい、世論形成をめざしましょう。

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や

今回のオンライン署名や



▲各加盟組織へ送付される横断幕のデザイン
オンライン署名のQRコードも掲載している
▲折りたたむとティッシュに封入できるチラシ
(データ配信)

「もう限界!」記者会見で訴え

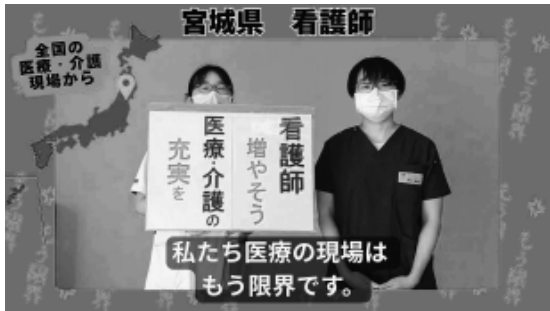
▶記者会見は
YouTubeで
公開中



この秋の団体署名等の取り組みを世論に広げるため、10月21日に厚労記者クラブで会見を行い、診療・介護報酬10%以上アップを訴えました。

米沢哲書記長は会見で、各種調査からケア労働者の賃金状況を示し、「報酬を引き上げていただく、これに尽きます。もしそれができなければ地域医療が崩壊してしまう」と強く訴えました。

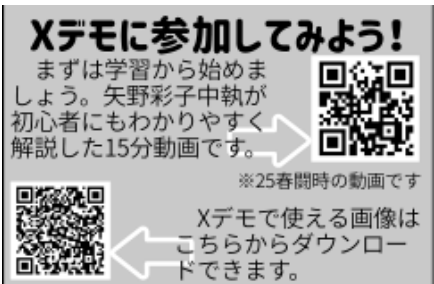
続いて、全国の加盟組織からの訴えを動画で紹介し、「入職者が募集人数に達していない。退職者の欠員が補充されないまま」など、人員不足を訴える声が相次ぎました。人員不足により「利用者の転倒も増えている」「業務に支障が出てくると清潔ケアが後回しになる。入浴が週1回になる事態も」など、十分なケアが提供できない現状を吐露する声も。そして「人員不足になるのは賃金が低いから」「赤字を理由にボーナスが減らされている」と低賃金の実態を訴え、報酬アップを強く要求しました。



▲全国からの訴えは動画で紹介した



▲京都医労連のXに投稿されたストライキのようす



※25春闘時の動画です
Xデモで使える画像はこちらからダウンロードできます。



▲25春闘のXデモでトレンド入りした時の表示

25春闘では、SNSでの発信を提起し、各加盟組織がハッシュタグ「#私たちストライキします」で現場実態やストライキの様子をXデモで発信しました。ハッシュタグは毎回「トレンド入り」し、メディアからの問い合わせも相次ぎました。

トレンド入りとは、あるキーワードやハッシュタグが同時多発的に投稿されることにより、話題のトピックスとして注目を集めることです。リアルタイムに更新されるランキングにも表示されるので、世論にも大きな影響を与えることができます。

「ケア労働者らしさ」投稿して

SNSには膨大な投稿が流れているので、心をつかむ投稿をしなければ読み飛ばされてしまいます。文字だけの投稿ではなく、ストライキの写真や映像など視覚的な情報も加えることで、多くの関心を集めることができます。

25春闘では、京都医労連が、白衣姿でストライキをする看護師の映像を投稿し、5000に迫る「いいね」を獲得して、ユーザーの画面には9・1万件も表示されました。ケア労働者らしさを視覚的に

めざせ! Xデモに結集して ネット世論をつかもう

この秋の診療・介護報酬10%以上引き上げを求める取り組みでは、世論形成のためのSNS活用が提起されています。積極的な発信で世論喚起をねらいましょう。

医労連の強みを SNSで発揮しよう

今秋は、SNS発信用の画像として、日本医労連が実施した調査や政府の調査などをもとにした図解やグラフの画像を多数用意しています(発059号参照)。自身で映像や写真を撮影することが難しい場合は、画像を活用して投稿しましょう。また、オンライン署名のURLを投稿に掲載すると、画像を添付しなくても、オンライン署名のトップ画像が投稿に表示されます。日本医労連では、Xデモの開催を提起しています。10月30日(木)、11月6日(木)、11月13日(木)の3週にわたって、いずれも18時から20時に開催します。この時間帯にハッシュタグ「#もう限界です診療報酬を賃上げに」「#地域から病院をなくさないで」をつけて断続的に投稿しましょう。

日本各地から同時に何度も投稿することで、トレンド入りをめざせます。全国に加盟組織があることが、私たち日本医労連の強みです。積極的に発信していきましょう。

日本各地から同時に何度も投稿することで、トレンド入りをめざせます。全国に加盟組織があることが、私たち日本医労連の強みです。積極的に発信していきましょう。



制度改善へ2つの運動提起

精神部会オンライン学習会

精神部会は10月5日にオンライン学習会を開催。1全国組合13県医労連から集団視聴を含み50人以上が参加し、情勢を学び運動の意思統一をしました。

情勢学習で米沢哲書記長は25春闘について、物価高騰も影響し労働者の賃金は実質的には上がっておらず、ましてやケア労働者の賃金は民間企業に比べると全く不足していると指摘。そんななか医労連では、統一ストライキやストマッピング、記者会見を行い、多くのマスコミや国会議員がケア労働者の処遇改善に関心を寄せたと話しました。25秋闘では春闘で作った流れをつなぎ、「いのちと暮らしを守り、労働力の再生産を担うケア労働者の賃金が（民間主要企業の）半分以上の水準に引き上げられ、賃上げを要求しよう」と訴えました。

学習講演では、精神医療が

含まれることになった「新たな地域医療構想」について、澤口勇副部長から講演がありました。澤口副部長は、従来の国の医療計画に精神医療は含まれておらず調査もされていなかったことから、他科と比べ精神医療の遅れはより明らかにしたと指摘。新たな地域医療構想における精神医療分野は、調査が始まったばかりであり今後の政策展開は未知数ではあるが、それ故に今が精神医療の現場実態を届け、改革を促させる運動のチャンスだと強調しました。

続いて、精神部会の運動提起を佐々木和敏部会長が行いました。佐々木部会長は、現

処遇改善は患者のため

精神部会・厚労省要請

集会翌日6日に厚労省要請を行い、現場の実情を訴えながら、制度改善や労働者の処遇改善を求めました。

要請団は精神部会運営委員を中心に、全医労からも2人が参加しました。要請冒頭では、佐々木部会長が要請書を厚労省の担当者に手交。病院存続危機の報道や患者の高齢化に伴い労働力がより求められるなか、賃金・労働条件は一向に良くなって

いないことなどを挙げ、そういった現場の状況を聞いて政策に反映してもらいたいと、厚労省担当者に述べました。その後、患者の権利擁護、地域移行に伴う施策の強化、労働者雇用の保障、精神科の人員配置基準と診療報酬の改善など11項目に渡り制度・政



厚労省要請の様子

学びを深めて実践へ

第27回一般病院労働組合全国交流集会

一般病院部会は、10月5日～6日で「第27回一般病院労働組合全国交流集会」を福島県のチサンホテル郡山で開催し、7組織から17人が参加し、学習と交流を深めました。

聞き力、語り合う力が大事

記念講演①は、相澤幸敏労働者教育協会常任理事（元日本医労連書記長）が「労働組合の権利と役割―労働組合とは」と題し講演を行いました。

「労働組合は一生に一度きりの人生の中で、労働者が人間らしく生きるために必要な組織」だとして、その性格・役割について、根拠となる憲法にもリンクさせながら学びました。また、労働組合が労働者の要求実現のため、歴史的



地域医療守る決意新たに

自治体・公立病院労組全国交流集会

自治体病院部会は、10月5日～6日に自治体・公立病院労組全国交流集会を日本医療労働会館にて開催し、9県9組合から23人が参加しました。

櫻井順一中央執行委員は基調報告で、25春闘についての報告や夜勤規制・大幅増員のアクションプラン、組織拡大について提起しました。

学習講演は「公立病院労組の賃金闘争―人動だけじゃない」と題し、渡辺勇仁中央副執行委員長が行いました。単組での経験や人事院勧告の仕組み、俸給表がそれぞれの地域でどのように運用さ

れているかなど具体的な事例を挙げながら講演を行いました。また、労働組合の運営方法と役員の構えについても触れ、議題ごとに小グループに分かれ、討論を行いました。参加者からは、「労働組合があるから、賃金・労働条件が守られた」「自分の施設でもできることがあるかもと希望をもらった」「組合運営の基本や求められるもの、考え方を学ぶことができた」などの感想が寄せられました。

2日目は、組織拡大、



緊迫した模擬団交の様子

と現役世代に温かいエールを送りました。

怒りの結集で1日スト決行

記念講演②は、古川真由美群馬県医労連書記長が「群馬県医労連 利根保健生協労働組合―初めての1日ストライキ―」と題し講演を行いました。

例年は定昇実施のみで3月には運動で獲得してきた権利を守るためには、不断の努力と職場に労働組合を持続的に存在させる必要があると語りま

は妥結しストライキ経験はない組合が、学習と対話を積み重ねました。ペア評価料を原資に手当しか示さず、ペア1円すら回答してこない理事会对し、「今までは原資がないとペアを拒否されてきたが、24春闘は『原資がない』とは言わせない!」と怒りを結集。組織拡大もしながら1日ストライキを打ち抜き、団結を深めペアを勝ち取った成果が語られました。

2日目は模擬団体交渉を行いました。迫力ある交渉に参加者から「緊張した」「すべて録音し活用します」と感想がありました。さらに、「賃上げ・仲間ふやし」をテーマにグループ討論を行いました。学習と交流を大いに深めた2日間となりました。

